研究タイトルはこの行に記入してください。

副題があればこのあたりに

多摩 太郎（29988777xx@tama.ac.jp)

1. 問題と目的

研究目的について書く。先行研究を簡潔に紹介しつつ，自分の研究の目的・仮説を書くこと。本研究の目的は、列形成における人々の同調の志向性を調査することにある。筆者はサービスエリアでのアルバイト経験があり、1 人が並ぶと 2 人、3 人と列を形成していく現象を多く見ている。その経験から、より多くの列が形成されている場所に同調して並ぶ傾向になるという仮説を立てる。先行研究（横田・中西,2010）から、同調志向性の個人差を測定、弁別できる同調志向尺度である規範的影響因子 13 項目、情報的影響因子 10 項目を引用し、列形成における同調行動の規範的影響、情報的影響との関連性について明らかにすることを目的とする。

2. 方法

調査対象者は多摩大学経営情報学部在学中の 41 名であった。なお、全回答者のうち、回答に不備があった 4 名を除いた。よって、有効回答数は 37 名であった。調査は、グーグルフォームを用いたアンケートで実施された。アンケートの冒頭の説明文によって同意を得た。回答は無記名で行われた。本調査のアンケートは、「性別」、「列に並んだことがあるか」、「列形成における質問」、「同調志向の調査」の流れで質問をした。

3. 結果

回答者の、列の人数と並ぶかどうかの判断がどの程度関連しているのかを知るために、相関分析を実施した。

表 1. 人数と並ぶかどうかの間の相関分析表

	M	SD	0人	1人	2人	3人	4人	5人	規範	情報
0人	4.686	0.854	—	0.747 **	0.603 **	0.310 +	0.038 ns	-0.052 ns	0.196 ns	0.010 ns
1人	4.743	0.769		—	0.762 **	0.548 **	0.266 ns	0.090 ns	0.353 *	-0.066 ns
2人	4.429	0.871			—	0.787 **	0.490 **	0.334 +	0.089 ns	0.000 ns
3人	3.800	1.166				—	0.698 **	0.630 **	0.090 ns	0.014 ns
4人	2.971	1.502					—	0.894 **	-0.143 ns	-0.097 ns
5人	2.514	1.500						—	-0.049 ns	0.021 ns
規範	4.057	0.791							—	0.414 *
情報	3.300	1.016								—

n=35

表 1 は各項目間の相関係数を示したものである。0 人から 5 人までの並びやすさと、規範的影響因子、情報的影響因子の関連について検討した結果、いくつかの項目で有意な相関がみられた。

結果から、列の人が少なくなるほど相関の強さが強くなっていることがわかる。つまり、人数が少ない列に並ぶ人ほど、人数の多い列に並ばないということである。また、規範因子の平均値（m=4.057）が高いことから、人数の少ない列に並ぶ人は規範的であることがわかる。

人数と並ぶかどうかの判断について、1 要因 6 水準の分散分析を行った。その結果、主効果が優位であった（F（5,170）=40.67,p<.05,）。

表 2 は 0 人、1 人、2 人、3 人、4 人、5 人のときの並びやすさの度合いを示したものである。0 人から 5 人までの列とその列に対して並ぶかどうかの関連について検討した結果、いくつかの項目で有意な結果がみられた。

表 2　人数による並びやすさの度合い

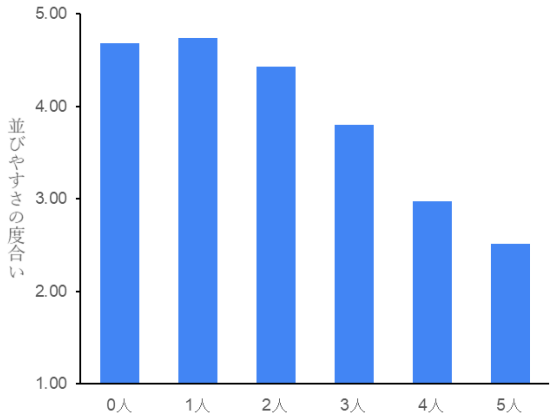

表 2 を見ると 0 人から 5 人に向かうに連れてグラフが右肩下がりになっていることがわかる。人数が多いほど並びやすさの度合いが下がり、人数が少ないほど並びやすさの度合いが高まっている。よって、人がほぼいない状態が一番並びやすいということがわかる。

4. 考察

相関分析の結果、いくつかの項目で有意な相関があり、少ない人数の列に並ぶ人は規範的であるという結果が確認された。分散分析の結果も同じように少ない人数の列ほど並びやすさの度合いが高いことがわかり、十分な整合性が確認された。本研究では画像でのアンケート調査だったが、実際に列形成の場を作り、よりリアルな実験を検討する必要もあるだろう。

5. 引用文献

同調志向尺度の作成――規範的影響と情報的影響――横田晋大・中西大輔（2010）広島修大論集 51 (2), 23-36, 2011-02-28